

職域と地域をつなぐ健康指導システムの開発と実践

石井佐登美¹、宗像ゆかり¹、高橋正宏¹、今野金裕²、大櫛陽一³

(1 : 郡山市健康振興財団 2 : 郡山市保健所 3 : 東海大学医学部)

目 的 : 生涯を通じた健康管理を行うために、職域での事業所健診と地域での老人基本健診のデータを個人のもとに統合した保健指導システムを開発した。また、そのシステムを使った健康相談を実施して、評価を行った。

対象と方法 : 事業所健診受診者で最近退職して老人基本健診を受けている者を抽出した。各自に研究への参加に関するアンケートを実施した。保健指導システムとして、健診受診歴表示、臓器別判定レーダーチャート、検査結果の時系列グラフ、検査結果数値表示を開発して、健康相談を実施した。

結 果 : 292人対象者を抽出した。回答率は65%で、研究の趣旨を理解し個人データの利用について同意した人は91%であった。今回は、この中から24名について面談による健康相談を実施した。事業所健診と老人基本健診では一部項目の不一致があったが統合に成功し、退職前後での健康状態の変化をビジュアルに確認できるようになった。受診者の意見は、「変化と自分のライフスタイルの関係がよく分かった。」、「退職後も変化がなくて安心した。」などであった。指導側は、「長期にわたるデータがあり指導の説得力があった」、「治療歴や生活習慣も表示したい」などであった。

結 論 : 職域と地域をつなぐ健康管理システムは保健指導に有効と考えられる。